

京都府地域医療再生計画の概要

「ICTを活用した健康・医療連携システム」の構築及び「救急医療」、「がん治療」、「総合リハビリテーション」、の一層の充実・強化を目指して

平成23年11月
京都府健康福祉部

京都府地域医療再生計画(案)策定の趣旨

○計画策定の趣旨

本格的な少子高齢化が到来する中、府民が将来にわたり安心して暮らしていくために、より安全で質が高く、効果的な医療が受けられるよう、府全域における急性期から回復期、在宅医療に至るまでの強固な医療提供体制を構築しようとするものです。

このため、これまでから京都府が重点的に取り組んできた「京都府救急医療懇談会」及び「京都府がん対策検討会議」、「京都府総合リハビリテーション推進プラン検討会」、「あんしん医療制度研究会」等での検討結果を踏まえ、『ICTを活用した健康・医療連携システム』の構築及び『救急医療』、『がん治療』、『総合リハビリテーション』の4つの分野における医療提供体制の充実・強化を図ることとしています。

京都府地域医療再生計画の構成

○ICTを活用した健康・医療連携システムの構築

ICTを活用して、府民が健康情報を登録・蓄積して、かかりつけ医、保健センター等の支援を得ながら、自らの健康管理を行うことができる「京すこやか健康管理システム(仮称)」を構築するとともに、地域の疾病構造や医療提供等の状況を定量的に分析・把握し、地域の実情に応じた保健医療施策の推進に取り組みます。

○救急医療体制の充実・強化

京都府全域で地域完結型の救急医療を推進するため、「断らない救急医療」を担う地域の中核救急病院等の体制強化を図るとともに、救命救急センター(地域救命救急センターを含む)の増加を目指します。

また、大規模災害発生時に速やかに対応できる災害時緊急医療体制の充実を図ります。

○がん治療体制の充実・強化

京都府がん対策推進条例に基づく、がん治療体制の充実・強化を図るため、予防・早期発見の徹底と、誰もが身近な地域で放射線治療が受けられるよう、京都府全域でがん治療設備の充実を推進し、より効果的ながん治療の均てん化を図ります。

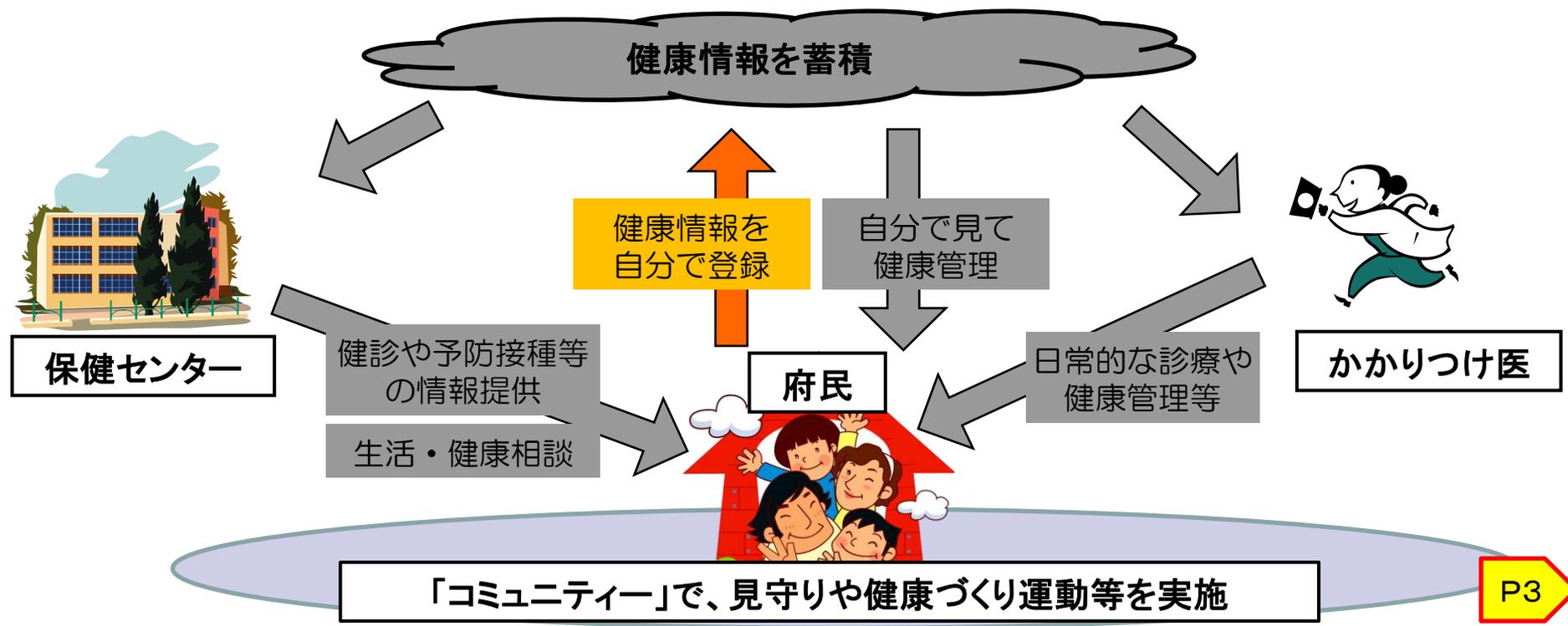
○総合リハビリテーション体制の充実・強化

京都府全域で急性期、回復期、生活維持期のシームレスなりハビリテーションを提供するため、理学療法士等リハビリ人材の育成、地域のリハビリ拠点施設の整備の充実、回復期リハビリ病棟の整備等を図るとともに、在宅療養の支援のための地域包括ケア支援病院の整備や高次脳機能障害者への支援等を強化します。

「京すこやか健康管理システム」(仮称)【イメージ】

○ ICTを活用して、府民の疾病予防・健康維持増進を支援

- ・ 府民が、自分の健診データ、血圧などのバイタルデータ、予防接種の履歴、アレルギーの記録等を登録・蓄積
 - 府民が、自分の健康情報を見ながら、自らの健康管理ができる
 - かかりつけ医も、蓄積された健康情報を見ながら、日常的な診療や健康管理等を行うことができる
 - 保健センターにおいても、蓄積された健康情報を見ながら、健診や予防接種の日程などを情報提供するほか、希望があった場合には、生活・健康相談に応じることもできる



救急医療体制の充実・強化

課題

- 高度化・多様化する救急患者への高度かつ良質な救急医療の提供
- 都市部に集中する救急医療資源の偏在化の解消

施策

○「断らない救急医療」を担う地域の救急医療機関の診療体制の更なる強化

【救急医療の基盤整備】

- 地域の救急医療の中核を担う医療機関に対して、さらに高度かつ良質な救急医療を提供するための施設整備と医療機器等の設備の充実を図ります。
(新たな救命救急センターの整備を目指します)
- 中核を担う医療機関とともに地域の救急医療を支える医療機関に対して施設整備と設備の充実を図ります。

救命救急センター(三次救急医療)の量的充実／地域完結型の救急医療体制

いつでもどこでも安心して高度かつ良質な救急医療が受けられる生活環境

がん治療体制等の充実・強化

課題

予防・早期発見の推進、がん医療の均てん化、患者支援体制強化
(検診受診率が全国的に見て低位) (医療資源が京都市域に集中) (ワンストップ相談窓口が必要)

予防・早期発見

受診率向上、検診・
予防体制の整備

- 受診啓発の強化
- マンモグラフィ整備による受診受入体制強化

医療体制・緩和ケア

専門人材の確保、
がん医療の資源整備

- 大学で専門講座開設
- 放射線治療機器の未整備医療圏への整備
- 緩和ケア病棟整備

情報提供・支援

患者への情報提供体制
の強化

- 相談支援体制の強化
- 患者向け冊子の作成
- ピアカウンセラー養成

総合的ながん対策の推進体制

府民や関係者との協働体制の確立

- がん対策推進府民会議の設置、
- 受診啓発、患者への情報提供等府民運動の展開

施策

がん死亡の減少、がん患者の療養生活の質向上

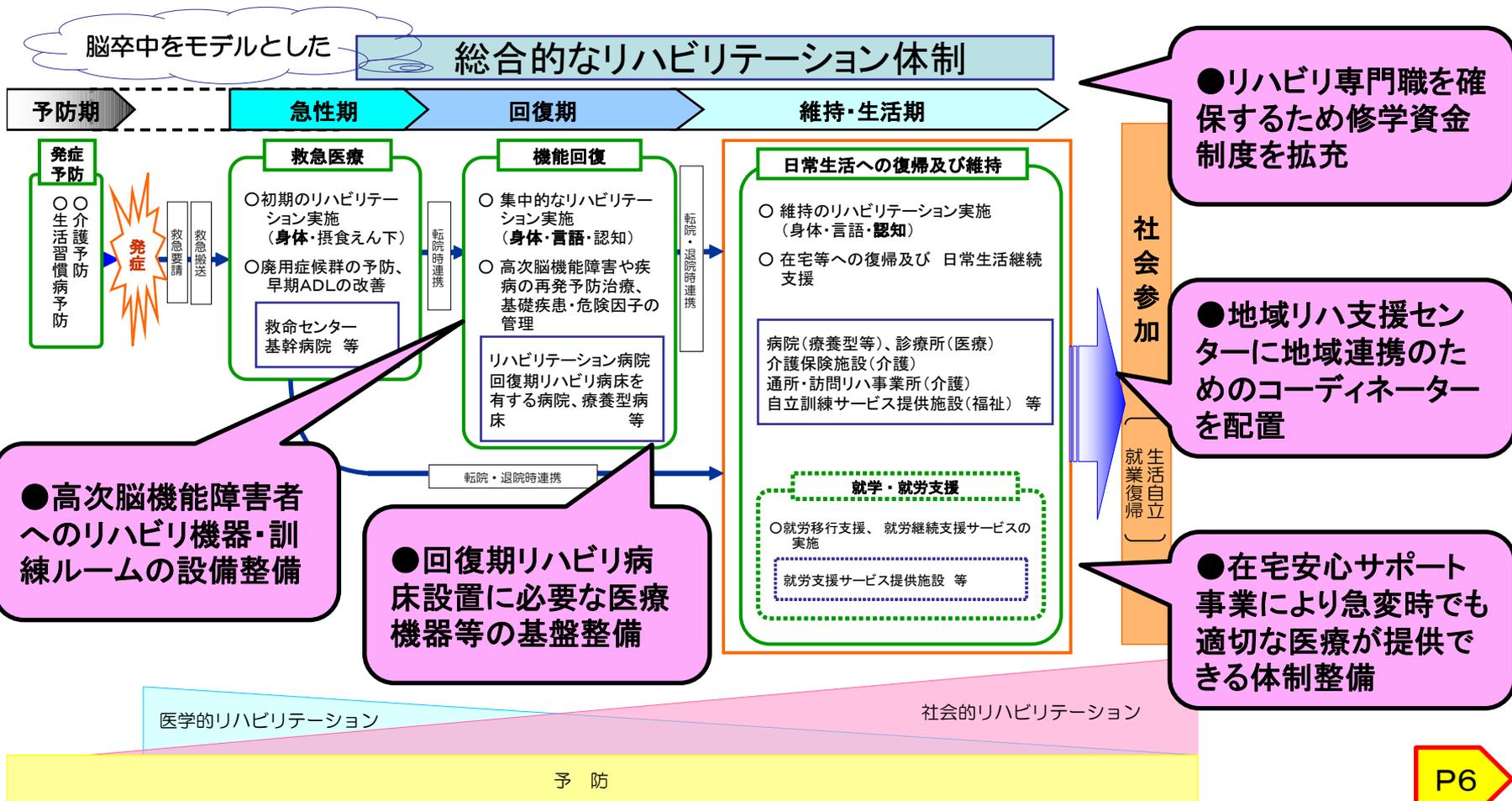
総合リハビリテーション体制の充実・強化

課題

○人材の確保・定着 ○施設の拡充 ○連携体制のシステム化

施策

●リハビリ人材の育成、地域のリハ拠点施設の整備・充実を図り、府全域での急性期、回復期、維持・生活期のシームレスなリハビリ提供体制を構築します。



京都府地域医療再生計画で実施する主な施策

総事業費55.4億円
(うち基金29.4億円)

事業費1.3億円(うち基金1.3億円)

○ICTを活用した健康・医療連携システムの構築

- ・ ICTを活用して、府民が健康情報を登録・蓄積して、かかりつけ医、保健センター等の支援を得ながら、自らの健康管理を徹底することができる「京すこやか健康管理システム(仮称)」を構築する。地域の疾病構造や医療提供等の状況を定量的に分析・把握し、地域の実情に応じた保健医療施策を推進

事業費18.9億円(うち基金10.2億円)

○救急医療体制の充実・強化

- ・ 「最後の砦」として各地域の救急医療を支える中核病院及びそれを支える二次救急病院の基盤整備
- ・ 府南部地域におけるドクターヘリ運航による広域救急医療の実施に向けた整備
- ・ 災害拠点病院及び府緊急災害医療チーム(DMAT)を中心に発災時初動体制を強化 他

事業費23.4億円(うち基金9.9億円)

○がん治療体制の充実・強化

- ・ 誰もが身近な地域で放射線治療が受けられるよう、放射線治療機器の未整備地域への配備
- ・ がん患者が専門的な緩和ケアを受けられる環境を広く整えるため、緩和ケア病棟の整備 他

事業費11.8億円(うち基金8.0億円)

○総合リハビリテーション体制の充実・強化

- ・ 患者に対する早期からの集中的かつ専門的なリハビリを提供し早期の社会復帰を実現するため、回復期リハビリテーション病床の設置や機能訓練室の整備を支援
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で24時間、365日、安心して療養生活を送れるよう、自宅療養者がいつでも入院できる「在宅療養あんしん病院」を中心とした在宅療養サポートのシステムを整備
- ・ 高次脳機能障害者への診療及び訓練、回復期リハビリテーションを包括的に提供するため、リハビリ機器、訓練ルームの設備を整備 他